

あい アイ
 地域への♡と外からの👁️で地域おこし
 - 北上市地域おこし協力隊 -

地域おこし協力隊は、都市部から地方に移住して、地域ブランドや地場産品などの開発・販売、農林水産業への従事などを行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。

北上市ではこれまで10人の協力隊員が参画。まちが元気になり、任期後も定着して活動しています。今回の特集では協力隊員の活動や地域との関わりなどを紹介し、まちづくりの効果に迫ります。

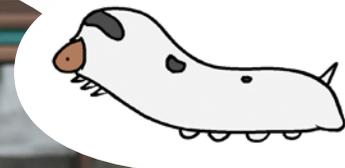
問 都市プロモーション課 ☎72-8308



北上市地域おこし協力隊員
 将来の養蚕農家プロジェクト
 高橋 愛衣さん



埼玉県職員から北上市地域おこし協力隊員へ。横浜市出身。



繊細な作業が求められる、繭細工。「工房夢繭・花(盛岡市)」で技術を磨いています

蚕 と聞いて、白い幼虫や繭を思い浮かべるでしょうか。その蚕を繭まで飼育する養蚕業。近代化が進んだ明治から日本の産業を支え、岩手県内でも県南から県北まで広く行われてきましたが、戦後には外国産の安価な絹糸や化学繊維などに押され、縮小。今では県内の養蚕農家は10戸弱になりました。

北上市の更木地区では中山間地域や北上川の河川敷を中心に蚕のえさである桑の畑があり、養蚕を営んでいましたが、現在では養蚕業者は2軒に…。その更木で養蚕業をもう一度復活させようと取り組む女性が、北上市地域おこし協力隊員の高橋愛衣さんです。



ストーリーをたどり高得点を目指しながら養蚕を学ぶゲームブック。高橋さんが1年ほどかけて作成しました

ゼロから学んだ養蚕業・繭細工

高橋さんは埼玉県職員として働いていましたが、父の故郷の北上市で仕事をしたいと、更木ふるさと興社と市が協働で企画した将来の養蚕経営者を育てるプロジェクトに賛同し、令和2年4月から地域おこし協力隊員として着任しました。

元々昆虫が好きで、伝統産業に興味がありました。養蚕業については右も左も分からない状態でした。少しずつ知識や技術を習得し、今では養蚕の一連の作業ができるようになりました。養蚕業の中心は春から秋にかけての期間。この間に桑を栽培し、蚕を飼育し、繭を収穫します。「炎天下での桑栽培作業



株式会社更木ふるさと興社
代表取締役社長
福盛田 洋幸さん

更木出身。進学のため北上市を離れた
が、北上市へIターン。設立した平成21
年から更木ふるさと興社に在籍。



は大変。飼育場の掃除も衛生環
境に繭の生産が左右される養蚕
にとっては大切で、神経を使う
作業」と話します。そのような
苦労を通して、真っ白できれい
な繭を収穫できた喜びはひとし
おのようです。

養蚕業が休みとなる冬の期間
には商品開発に着手。形が崩れ
るなど出荷できない繭を使っ
て、染色・加工して花に造形す
る「繭細工」を始めました。繭
を薄く剥いだり、丁寧に形を変

プロジェクトの企画から携わ
り、高橋さんの活動を身近で見
てきた、更木ふるさと興社の福
盛田さんはその奮闘ぶりを称え
ます。「知らない土地にもかか
わらず頑張っている。体験交流
や加工品の開発、情報発信など、
外からの目線を持つ協力隊員で
なければできなかったことがで
きたことにも感謝している」と
ほほ笑みます。



養蚕体験会には、生き物と触れる体験や
伝統産業を学びたい家族が参加しました

えたりと繊細な指使いで、付加
価値の高い商品に仕上げます。

高橋さんはこの他にも、地域
の探究学習として小学生などを
対象とした養蚕体験会を開催。
伝統産業の学習や更木地区の歴
史の継承に一役買っています。



東京の大手町で行われた、移住イベント「岩手
わかすフェス」では自身の活動や更木地区をPR。
華やかな繭細工に多くの人が足を止めました

また、地域おこし協力隊員と
して2年間ほど高橋さんと同じ
プロジェクトで活動した、松岡
さんも高橋さんの頑張りを認め
る一人。「協力隊は比較的自由
な活動が許される反面、責任感
が必要になります。高橋さんは
責任感が強く、隊員として積極
的に活動に取り組んでいる」と
目を見張ります。

高橋さんの任期は令和5年4
月23日まで。地域おこし協力隊
員として、また養蚕に関わる者
として、一つの区切りを迎えま
す。任期中に養蚕農家として自
立するには至りませんでした
が、退任後も養蚕や繭細工への
関わりを見据えます。

さらのき工房 代表
元北上市地域おこし協力隊員
松岡 冴さん



東京都大田区からIターン。大学で織物を学が
中、蚕の能力に驚き、夢中に。養蚕農家を志し、
平成31年から3年間、更木の養蚕プロジェクト
の隊員として活動。現在はさらのき工房を起業
し、養蚕のほか、オリジナル
ブランド「SaLa Silk」のシル
クパフ・ボディタオルを開発・
販売している。



ふやかした繭を伸ばして重ね、
シルクパフに仕上げます



北上巣箱 代表

深津 咲奈さん [東京都からIターン]

スポーツツーリズムプロデューサー事業
<任期 平成30年4月23日~令和3年4月22日>



アウトドアやスポーツによる地域づくりに可能性を感じ、移住しました。退任後は個人事業主として、地元の人や自然と触れ合うプライベートツアーと、水沢鉱山探検ハイクなどのアウトドアアクティビティのガイドをしています。地域の人たちの力を借りて開催できています。

参加者には楽しんでもらうことはもちろん、人や自然とのつながりを見つめ直すきっかけにしてもらえたらと思います。一方で私自身は参加者からあたたかい気持ちをいただいています。

北上を拠点に、人と人、人と自然とをつなげていくことが私の目標です。



近隣の人を対象にした北上近郊のツアーも(写真は牧草地サイクリング)



フリーライター

小澤 政行さん [東京都からIターン]

ローカルカンパニー魅力発信プロジェクト
<任期 平成30年8月1日~令和3年7月31日>



事業者の魅力を発信したいと思いプロジェクトに参画しました。現在はフリーライターとして、北上市の魅力を働く人を通して伝える「きたかみ仕事人図鑑」、20代の働く姿や夢に焦点を当てた「20代の肖像」などを運営し、webやSNSで発信しています。



仕事人図鑑

本年度から、北上雇用対策協議会から委託を受けラジオ番組「北上地区で働くということ」を制作。

きたかみE&BeエフエムやYouTubeで公開しています。地元で働く若者のリアルな声を通して、地元で働くことを考えるきっかけ作りを狙います。



北上地区で働くということ



取材では、相手の本音や自然な表情を巧みに引き出しています



20代の肖像

私たち
元協力隊

地域おこし協力隊 OBOG 日記

こびる
夏油古民家カフェkobiru & 観光案内所
中村 吉秋さん・邦子さん [宮城県からIターン]

夏油高原エリア活性化プロジェクト
<任期 平成28年5月9日~令和元年5月8日>



夫婦でカフェを開くという夢が叶うプロジェクトに出会うことができました。任期中に岩崎地区にある築100年の古民家をリノベーションして、古民家カフェを営業しています。観光案内所の機能も備え、地域内外から人が訪れてくれます。

改修を始める前から岩崎地区の人たちが本当に手厚いフォローや気遣いをして

くださり、本当に感謝しかありません。

北上市の地域おこし協力隊は制約が少なく、比較的自由的な活動ができます。そのため責任感ある行動と、許容して下さる地域の理解が必要だと感じています。

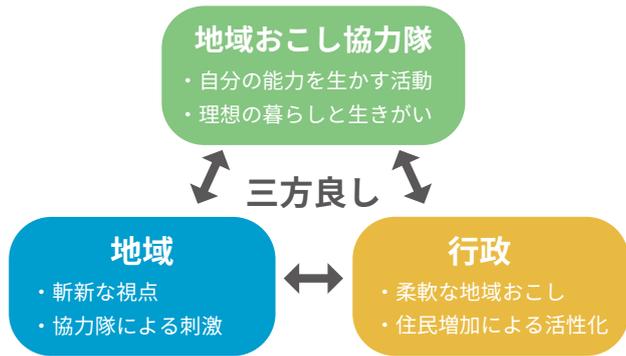
うれしいことに隊員の人たちにも頼りにされるようになりました。人が集う公民館のようなカフェにしたいです。



カフェ営業だけでなく、ヨガやマルシェなどが集うイベントも開催



■協力隊・地域・行政との関係性



地域課題の解決を期待される
協力隊員

平成21年に開始された地域おこし協力隊制度は、令和3年度の取り組み団体数（受け入れ自治体数）が全国で1085団体、6015人の隊員が活躍しています。国では令和8年度までに隊員を1万人に増やす方針です。隊員を任命するのは各地方自治体で、活動内容や条件、待遇はさまざま。任期はおおむね1年〜3年です。地域おこし協力隊の活動は隊員本人だけでなく、地域や行政の三

■北上市地域おこし協力隊の制度

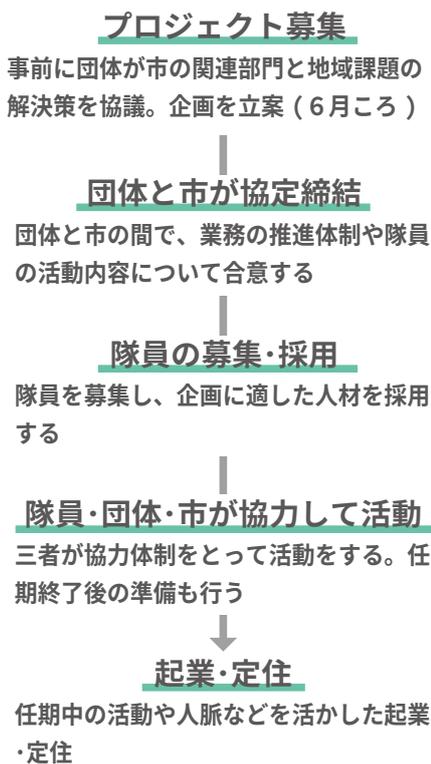
- ・委嘱期間 1年（最長3年）
- ・報酬 月額26万円（活動基準日数は20日）
- ・特徴 ①隊員は市が直接雇用せず、受け入れ団体と連携して柔軟に活動する
②地域課題を解決するためのプロジェクトを受け入れ団体と市が協働して立案する

北上市の制度の現状と特徴

当市では、平成27年度から地域おこし協力隊の募集を始め、これまで10人の隊員が参画し、観光や農業、地域情報発信などのプロ

젝トが行われました。これまで退任した9人は全員が当市に定着。任期後も引き続き、北上市を拠点に活動してくれています。市の制度の特徴は二つあります。一つ目は隊員が受け入れ団体と連携して活動すること。市とは直接雇用関係がなく、市の就業規則などに縛られずに柔軟な活動ができます。二つ目は地域課題を解決するプロジェクトを行政と受け入れ団体が一緒になって立案すること。任期中、そして任期後の起

“北上市”地域おこし協力隊の流れ



次のプロジェクトに向けて

取材を通して、各プロジェクトに参画した北上市地域おこし協力隊の皆さんが自らの意思を持って、北上市で活動をしていることが分かりました。中には、全く縁もゆかりもないにも関わらず、地域やプロジェクトに魅力を感じて飛び込んだ人もいます。また、隊員を受け入れた団体や地域では、地域に溶け込み、課題解決に注力してもらおうとサポートしています。外部の人材の目線や、地域への愛を生かし、課題解決に取り組む三方良しのプロジェクトと一緒に考えませんか。